

まち協が臨時総会開催

機構改革で公的施設管理室を新たに設置

一之宮町まちづくり協議会では、平成27年度から、これまで一之宮町社会教育推進運営委員会が受けてきた一之宮公民館などの施設管理をまち協が受託することに伴い、まち協の規約改正を行う必要から臨時総会を開催しました。あわせて、モデル地区として1年間実施してきたまちづくり協議会の運営について改善点を洗い出し、規約改正をして機構などに反映することにしました。

そのため、3月13日に第3回理事会を開催し、それを受けて17日に臨時総会を開催しました。臨時総会には代議員23人が出席し（このほか委任状10人）、一之宮上班の大江伸司さんを議長に選び規約改正について審議しました。その結果原案通り承認されました。今回のまち協だよりではその内容についてお知らせします。

主な改正点

市の指定管理の公的施設管理業務をまち協が受託します。

事務局長を事務長とし、役員から外すとともに町外からも就任できるようにします。

役員選考規定を設けて円滑な役員選出ができるようにします。

総会の代議員を、これまでの各事業部会から推薦する5名について3名にします。

事業部会に「本部」を新たに追加、「本部」と「部会」で事業部会を構成します。

広い視野から広報活動ができるように、広報委員会を本部所属とします。

部会のうち、「総務環境部会」を「町内会長会」として整備し、これまでの連合町内会的機能も集約化する部会とします。

総括会議に町内会長代表及び副代表を構成員に加え、町内の情報、意向をよりまち協運営員に加える。



大江伸司議長により審議が行われた臨時総会

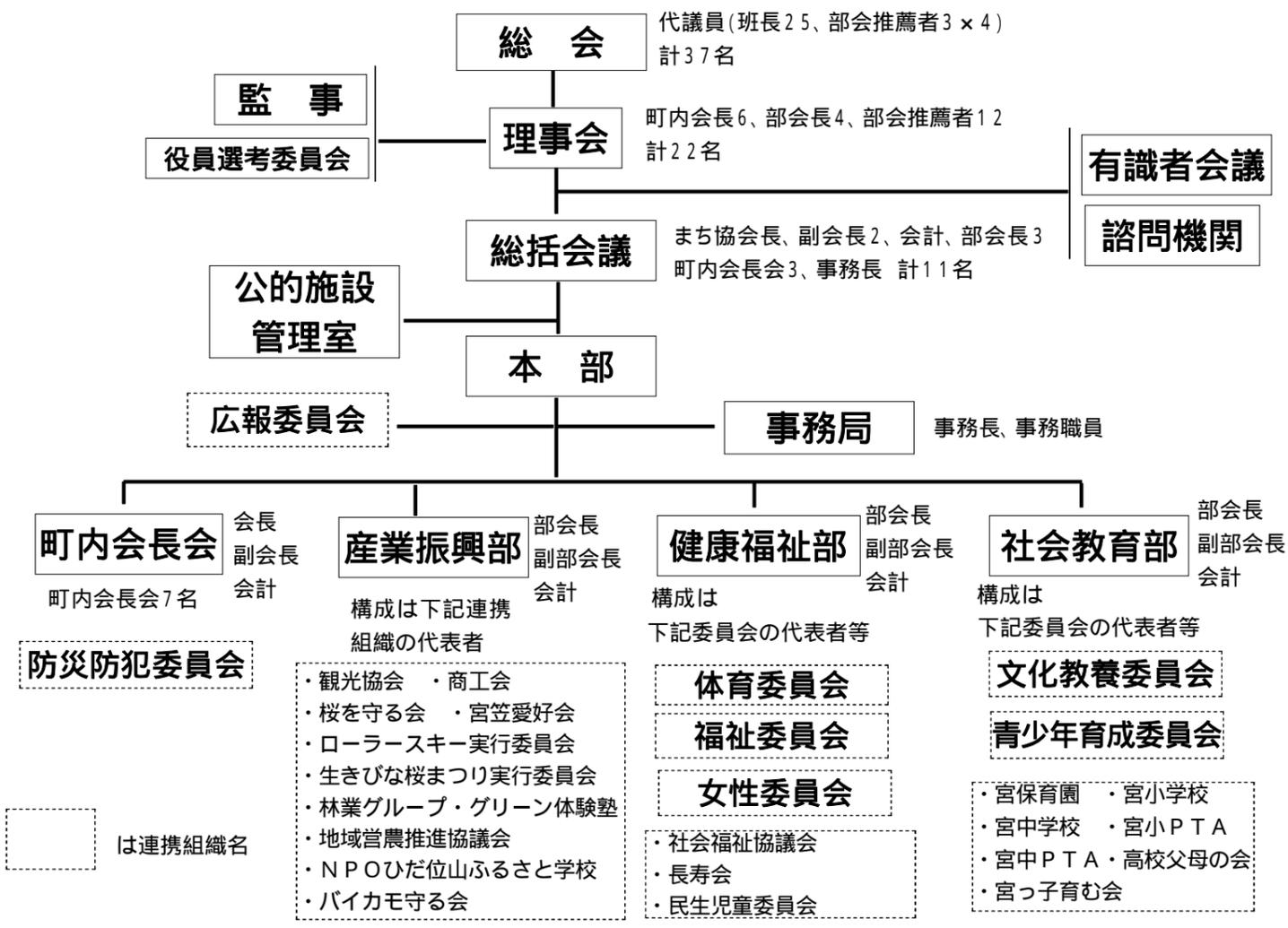
反映できる体制にします。

専門委員会を規約上に定め明確にします。

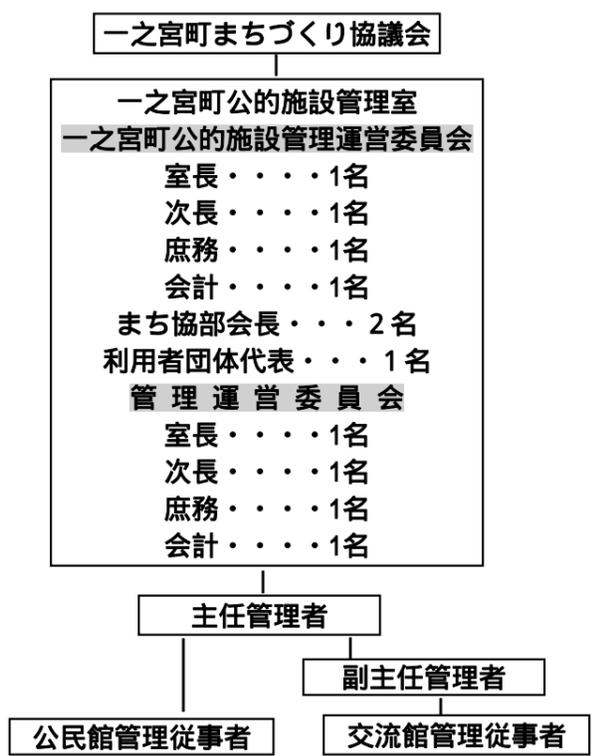
まち協運営に広く意見が反映されるよう、「諮問機関等」の設置を規約上に定めます。

に 営

一之宮町まちづくり協議会組織図



一之宮町公的施設管理組織 (一之宮公民館・飛騨位山文化交流館)



平成27年度温泉施設利用券について

市が発行する利用券で指定温泉施設が年間20回まで半額で利用できます。

対象者

- ・4/1現在において高山市に住所を有する65歳以上の方 (4/2以降に65歳になる方は次年度以降の対象となります)
- ・4/1現在において身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方

配付期間

4月1日～6月30日(H27年度より変更となります)

本人確認書類(運転免許証、健康保険証など。障がい者の方は障害者手帳)をお持ちください。(代理人の場合も同様)

配布場所

支所地域振興課、本庁高年介護課、総合・山王福祉センター、身障会館

編集後記: 町づくり協議会が発足して、2年目に入ります。役員交代などもあり各部会の活動も新しい企画も生まれると思います。そんな活動を楽しみにして、広報にも取り入れていきたいと思ひます。お気づきの点や意見等どしどし聞かせていただきたいと思います。今年度もよろしくお願ひします。(広報委員長:山腰進)

図書館だより

春は新生活スタートの季節です

図書館は暮らしに役立つさまざまな本や雑誌をとりそろえて、みなさんをお待ちしています。

新生活にぜひ図書館をお役立てください。

お知らせ

自動貸出機OPACの画面が新しくなりました。

わからない事があればお気軽にスタッフにおたずねください。

今月の特集

「おやすみなさい」の絵本

一日の終わりに「おやすみなさい」のその前に、家族がふれあう絵本を紹介いたします。

おやすみの読み聞かせにご利用ください。

おはなし会のご案内

4月18日(土)午前10時30分、スタッフによる絵本の読み聞かせ・手遊び。

申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。



一之宮町の人口情勢

世帯数	820戸		
年齢	男性	女性	合計
0～14歳	199	164	363
15～64歳	720	744	1,464
65歳以上	331	458	789
合計	1,250	1,366	2,616

3月1日現在・単位:人

25	18	7	6	5	2	2	日
土	土	火	月	日	木	木	曜
まち協定期総会	町内会長・班長会	まち協理事会	宮中入学式、始業式	宮小入学式、始業式	春の環境整備	宮保育園入園式	行政相談・心配ごと結婚相談(交流館)

公民館から

展示コーナー

臥龍桜日本画大賞所蔵作品展示 (5月末まで)

4月の公民館定休日

13日(月) 27日(日) 30日(木)

4月の位山交流館定休日

6日(月) 13日(月)

20日(月) 27日(月)

つばき

女川町へ向けてきました。高台にあるにも関わらず1階の所まで津波がきたという病院に立ち、その情景を思つくと涙が出そうでした。復興が十分でないにもかかわらず、地元の方々は気丈に頑張ってみえたと感じました。日頃の自分を振り返って考えさせられる旅行になりました。(山腰)

義援金や特産品など贈呈



贈呈式では義援金のほか宮笠など一之宮の特産品を贈りました。

一之宮町から30人が3月20日から22日にかけて宮城県女川町を訪れ、JR女川駅舎完成記念式典に参列し、義援金等を手渡し、桜の町同士の絆を深めました。

一之宮町まちづくり協議会が主催した「女川町復興応援ツアー」には田邊重敏まち協会長はじめ、武川尚一之宮支所長や山本茂宮中学校長、山腰美花さんから宮中学生4人、一般申込者等30名が参加しました。

20日夜9時半に出発後、車中泊して翌21日7時に現地に到着し、JR石巻線の女川までの全線開通祝賀式典に臨むというハードな行程でしたが、参加者は疲れれた様子も見せず、女川駅開業に合わせて本格的な復興をスタートさせる現場に立ち会いました。

式典後は二手に分かれて、津波の影響を受けた金華山と女川中学校を訪れました。

宮中の生徒4人をはじめ関係者は女川中学校(生徒数197名)との交流会に参加しました。交流会では、生徒会が集めた義援金や山腰さん寄贈の臥龍桜の絵、大幢寺住職金岡勝一さんの色紙を贈り、また宮小学校からのメッセージを渡し、お互いの学校紹介や意見交換を行いました。



法被を着て記念式典に参加した一行

「女川のちの石碑」の内容は千年後の命を守るために、非常時の助け合いに普段から絆を強くする

高台に町をつくり、避難路を整備する。

震災の記録を後世に残す。

夢だけは壊せなかった大震災

一之宮まち協だより

第11号

平成27年4月1日

一之宮町まちづくり協議会
広報委員会

高山市一之宮町3087
電話 53-2424

30人が訪問・交流 女川町復興応援ツアー

一之宮町まちづくり協議会が主催した「女川町復興応援ツアー」には田邊重敏まち協会長はじめ、武川尚一之宮支所長や山本茂宮中学校長、山腰美花さんから宮中学生4人、一般申込者等30名が参加しました。

20日夜9時半に出発後、車中泊して翌21日7時に現地に到着し、JR石巻線の女川までの全線開通祝賀式典に臨むというハードな行程でしたが、参加者は疲れれた様子も見せず、女川駅開業に合わせて本格的な復興をスタートさせる現場に立ち会いました。

式典後は二手に分かれて、津波の影響を受けた金華山と女川中学校を訪れました。

宮中の生徒4人をはじめ関係者は女川中学校(生徒数197名)との交流会に参加しました。交流会では、生徒会が集めた義援金や山腰さん寄贈の臥龍桜の絵、大幢寺住職金岡勝一さんの色紙を贈り、また宮小学校からのメッセージを渡し、お互いの学校紹介や意見交換を行いました。

夜は宿泊先ホテルで贈呈式が行われ、女川町で桜の植樹に取り組んでいる「女川桜守りの会」へ義援金50万円や特産品の宮笠、一之宮産の米、カーボテックの炭、水無神社のお神酒、飛驒の水を贈呈しました。

827名の犠牲者を出した女川町ですが、3分の1の復興が進んだ程度と式典で町長が述べていました。防潮堤は造らず、山を削って低地を埋め、家も高台につくる計画です。また、土地の整備ができていないため、仮設住宅が多くありました。仮設住宅は元野球場やグラウンドに作られていて、まさに仮に急いで作ったという感じでした。

一行は、高台にあったにも関わらず1階まで津波がきたという女川町地域医療センター、中学生が中心となって呼びかけ造られたという「いのちの石碑」などの震災

今回、女川町へ行った中学生は次のような感想を述べてくれました。「テレビでみた印象と違ってまだまだ復興ができていない印象。募金や津波の恐ろしさを伝えるなどしていきたい」「生徒が元気で頑張っているところが見られてよかった」「石碑を中学生が考え、中心となって進めていったところが素晴らしい」「強い地域の絆、団結力が子どもたちを支えてくれたと思った」

「女川のちの石碑」の内容は千年後の命を守るために、非常時の助け合いに普段から絆を強くする

高台に町をつくり、避難路を整備する。

震災の記録を後世に残す。

夢だけは壊せなかった大震災



女川中の生徒から石碑説明を聞いた後一緒に記念写真

コースのひろは

保・小・中で卒園・業式 76人が新しいステップへ

3月は卒業の季節。一之宮では園児から中学生までの76人が次のステップに向けて巣立っていきまします。

宮中学校では3月6日に卒業式が行われ26人が校舎を後にしました。式では在校生の代表が送辞を述べて「YELL」を歌って送り出すと、それに答えて卒業生の代表が答辞を述べ、「3月9日」などを歌って別れを告げました。

宮小学校では23日に卒業式が行われ、28名が卒業しました。式では卒業生が将来の抱負を元気に宣言すると、在校生も卒業生一人ひとりに感謝の言葉を述べ、厳粛な中にも心温まる卒業式でした。

宮保育園では24日に卒園式が行われ、22人一人ひとりが保育証書を受け取った後に、園で一番楽しかった思い出を語り、園児の歌のほかに先生や職員からのメッセージをいただきました。



将来の抱負を宣言する宮小卒業生



最後の歌を合唱する宮中卒業生



証書受取り後、元気に発表する卒園児

謝の言葉を述べ、厳粛な中にも心温まる卒業式でした。

宮保育園では24日に卒園式が行われ、22人一人ひとりが保育証書を受け取った後に、園で一番楽しかった思い出を語り、園児の歌のほかに先生や職員からのメッセージをいただきました。

ことと、小学校でやりたいことを大きな声で発表しました。思い出をスライドで振り返り、園児の歌のほかに先生や職員の送る歌で盛り上がりました。

「お点前が上手にできるようになった」「卓球の楽しさが分かった」「スキー大会の力になった」などといった感想を述べました。

今年度のサークルは5種目に61人が参加し、6月から3月まで各8回実施。このうち卓球では冬季の寒さを避けるため夏季に開講、大正琴では全国大会に出場するなど工夫した運営が行われました。

子ども見守り隊が交流会 今後の隊活動の充実を図る

一之宮町子ども見守り隊意見交流会が2月28日に公民館で開催されました。同見守り隊が新しく発足したのを機に、地域ボランティアと保護者ボランティアなど関係者が意見を交わして今後の活動に生かそうと開かれたもの。



意見を出し合う見守り隊の出席者

交流会には地域ボランティアの5人や宮小学校の中川校長、宮中学校の田中教頭をはじめ、17人が参加して意見交流を行いました。

意見では、子ども達のあいさつの態度での良い面や悪い面、自分たちの意識の持ち方、地域の参加の広がりなどたくさん意見が出ました。

こうした交流会は今回初めて開かれたもので、活動や組織の充実を図るために、今後も継続して情報交換をしていくことにしています。

サタデイサークル開講式 活動振り返り全員が発表

サタデイサークルの開講式が3月14日に、参加した子ども達や講師の先生、実行委員など70人ほどが集まって公民館で開催されました。

開講式では、子ども達がサークルごとにこれまでを振り返り、「一之宮の知らないところがあった」「大正琴の大会に出られてよかった」



一人ひとり感想を述べる子ども達

宮笠

今も昔も、春は新しい笠を楽しみにする季節のようです。飛驒宮笠愛好会として、その楽しみがずっと引き継がれるよう少しでもお手伝いをしていきたいものです。

下の写真は今回の女川町ツアーで寄贈した宮笠を、記念にと進呈した法被とともに早速身に着けて行事に参加する「桜守りの会」の方々です。(広報委員：中島照雅)



まち協のメンバーとして、飛驒宮笠愛好会があります。その会員は、春を特別の想いで迎えます。冬の間の宮笠講座で作った(問坂さんにだいぶ手直ししていただいたりしますが...)笠がようやく完成し、農作業などでそれを使う時期になるからです。

かつては一大産業だった宮笠の製造ですが、その頃も、冬の間を作りためた笠を出荷する時期として、春は賑やかだったそうです。年配の方に伺った話ですが、女性でもなかなかおしゃれをすることがなかった昔は、二十四日市で新しい女笠(傾斜が緩い平たい笠)を買ってもらい、春になって真新しい笠を田畑で使うのがささやかな楽しみだったとのこと。